

検査医学

科目責任者 菱 沼 昭
学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

臨床検査医学Clinical Laboratory Medicineは、疾病の診断、病態の解析、治療効果の判定に客観的なデータを提供する学問であり、根拠に基づく検査医学Evidence Based Laboratory Medicineとも言われる由縁である。現今、臨床検査は高度に多様化しており、多くの検査は中央化された検査室で大型の自動機器や訓練された技師により実施されている。出されたデータの信頼性を判断し、診断、治療に役立てるのは医師自らの責任である。

この一連の講義は、総論と各論に分けられる。総論では、検査の意義、有用性、効率、基準値、精度管理および検体採取法が述べられ、また、それぞれの検査の検査法、臨床的意義、異常値を示すメカニズムなどが述べられる。

各論では、臨床各科の学習内容を検査の立場から総合的に再構築し、検査医学への理解をより実践的かつ確固たるものとすることを目標とする。

当該授業科目は卒業認定・学位授与方針の到達目標 基本的技術として修得するものの検査分野に必要な不可欠な知識、技能を提供する。

- 1) 基本的な診療技術を修得すると共に、正常と異常とを判断できる能力
- 2) 問題点を総合的に判断して、その解決を図る能力

試験に関しては、正解を公表するとともに、質問や問題の適切性に関して学生からのフィードバックを受け付ける。

II. 担当教員

感染制御・臨床検査医学教員（全員）、埼玉医療センター臨床検査部、放射線医学、臨床各科、PETセンター（詳細は講義計画表参照）

III. 一般学習目標

臨床検査（検体検査および生体検査）の原理と異常値の出るメカニズムを理解する。

臨床検査全般を横断的に見ることにより、疾病と病態を理解する。

IV. 学修の到達目標

検体検査では、基礎医学の知識、特に生理学、生化学、免疫学の知識と臨床検査の知識を関連付けて総合的に理解する。

生体検査では、基礎医学の知識、特に物理学、解剖学の知識と臨床検査の知識を関連付けて総合的に理解する。

検査の実施されるステップを理解しながら、正しい検体の採取および誤った採取で生じる結果の変化を理解する。

臨床検査情報に基づいて診断計画、治療計画を理解する。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	4	6	月	6	検査の基礎	感染制御・臨床検査医学 菱 沼 昭
2		9	木	6	泌尿器科領域における諸検査	泌 尿 器 科 木 島 敏 樹
3		10	金	2	皮膚に関する検査	皮 膚 科 学 井 川 健

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
4	4	10	金	4	免疫学的検査	日光医療センター 戸 田 正 夫
5		10	金	5	腎機能検査	感染制御・臨床検査医学 沼 部 敦 司
6		15	水	6	血液学検査	内科学（血液） 和 賀 一 雄
7		16	木	3	肝・胆・膵の検査	内科学（消化器） 土 田 幸 平
8		20	月	1	妊娠・分娩・胎児の検査	教育支援センター 田 所 望
9		21	火	4	神経生理検査（脳波と筋電図）	看護学部之 看 宮 本 雅
10		21	火	6	聴覚・平衡機能検査 嗅覚 味覚	耳鼻咽喉・頭頸部外科 深 美 悟
11		21	火	7	内分泌機能検査	感染制御・臨床検査医学 小 飼 貴 彦
12		22	水	7	遺伝子検査	感染制御・臨床検査医学 菱 沼 昭
13		28	火	6	先天異常の検査・新生児の検査	小 児 科 学 鈴 村 宏
14		30	木	6	核医学	PETセンター 中 神 佳 宏
15	5	1	金	4	MRI検査	放射線医学 楯 靖
16		1	金	5	消化器疾患の検査	内科（消化器） 渡 辺 菜穂美
17		7	木	4	X線検査	放射線医学 稲 村 健 介
18		11	月	1	放射線診断学（PET）	PETセンター 中 神 佳 宏
19		11	月	2	呼吸機能検査・アレルギー検査	内科学（呼吸器・アレルギー） 清 水 泰 生
20		11	月	3	感染症の検査（真菌・寄生虫）	埼玉医療センター 本 田 なつ絵
21		15	金	4	糖脂質代謝検査	感染制御・臨床検査医学 小 飼 貴 彦
22		18	月	6	感染症の検査（細菌）	感染制御・臨床検査医学 吉 田 敦
23		18	月	7	超音波検査	福島県立医大 志 村 浩 己
24		19	火	7	眼科学検査	眼 科 学 須 田 雄 三
25		21	木	6	CT検査	放射線医学 荒 川 浩 明
26		21	木	7	感染症の検査（ウイルス）	感染制御・臨床検査医学 福 島 篤 仁

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

客観テストで65%以上。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

特定の書籍を教科書としては指定しない。

参考図書を挙げる。

医学書院：標準臨床検査医学， 猪狩 淳， 中原和彦 編集
南江堂：NEW臨床検査診断学， 宮井 潔 編集
医学書院：異常値の出るメカニズム， 河合 忠， 屋形 稔， 伊藤喜久 編集
中外医学社：基準値と異常値の間， 河合 忠 編集
メディカルレビュー社：検査結果の読み方， 考え方， 北村 聖 編集
西村書店：メディカルノート 検査の基本， 下条文武 編集
その他， 各臨床科にて使用されている図書

VIII. 質問への対応方法

随時受け付ける。担当教官に直接連絡すること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中のショートクエスチョンや試験での正答の公開。

XI. 求められる事前学習，事後学習

シラバス別冊参照。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊参照。なお，シラバス別冊に記載が無い場合，要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）